

# 「魚元つて青森を元気に」

## 野呂さん(青森)



す。考性知きな來一ベ寿と古学 学大高英の締「農  
野」化識士は「お合い」里生野院接が役主

△春 県庁を辞めた若者が深浦町岩崎の水産加工会社で第二の社会人生活をスタートした。「魚を売って青森を元気にする。まずは深浦で成功事例をつくり、他の漁協や市町村に広げていきたい」と意気込みは盛んだ。人生を懸けた漁業活性化への取り組みが始まつた。

# 夢追い 29歳の決意

県庁職員から深浦の水産会社へ転職

しかつた。専門知識が豊富で水産業への思い入れもある野呂さんは、求めていた人材だ

「を」とも考えていたので、呂さん。誘いを受け、間もなく県に辞表を出した。

の『神経締め』は体移すつむ  
いるが、野呂さん  
非常に素早く腕も確  
販売面も含め魚に  
く詳しく

りだ。  
町の吉田満町長についてとにかく漁師に信頼される人間力もある。古きな事業を任せられること材。期待したい」と話した。

(51) との出会い  
た。「研究熱心。  
も現場に出向き漁  
信頼されている県  
る。野呂 年 つた

明け、堀内さんは  
〔さん〕に声を掛け  
「魚価が上がらな  
出 摺 都

現在、野呂さんは首関し  
部圏などで鮮魚販売に  
携わる一方、深浦沖に  
出漁する漁船にも乗り  
出漁する漁船にも乗り

のオールマイティ  
と信頼を寄せていく

豊富で水産業への思い  
人もある野呂さん  
は、求めていた人材だ  
た。

野呂さん。誘いを受け間もなく県に辞表を出した。

現在、野呂さんは首部圏などで鮮魚販売に携わる一方、深浦沖に漁する漁船にも乗り込む。飲食店チエーンを展開するエー・ピー（サンパニー（東京）の画本部・深山佳嗣さ（37）は「（マグロ度を保持する）船上

の『神経締め』は体  
いるが、野呂さん  
非常に素早く腕も確  
販売面も含め魚に  
してオールマイティ  
と信頼を寄せてい  
野呂さんは今後につ  
て「適正に評価され  
ないたくさんの方々  
魚を発掘して売つ  
いきたい」と語る。  
前から温めてきた販  
移すつも  
深浦町  
は「魚」  
く詳しく

野呂さんは東京での生時代、元気のない里の姿が気になつた。年収、平均命など、なんなんだな、というぐらいワットが多い。でも本は魚が豊富な魅力的土。地良さを発信でいいない。水産の識を生かし地元の活性化ができるないか、とえるようになつた。野呂さんが夢を実現する場として最初に選

と魚組する目的か、たゞ職員から深浦町の水産加工・卸売業「あおもり海山」の取扱営業部長に転じたが青森市出身の野呂樹さん(29)。青森校卒業後、東京水産大学で6年間学んだ。

2009年4月に入庁、むつ水産事務所を切りに水産畠を歩いた。そこで魚価安にあ  
「話を  
森市内

がいる」。野呂さんは「業が内さんは13年秋に付を聞きたい」と青年の居酒屋「野呂」

は後継者も減り漁駄目になる。一緒に加価値を付けて魚を販売する企力を込めていこう

飲食店チエーンとしている。展開するエー・ピー・カンパニー（東京）の画本部・深山佳嗣さん（37）は「（マグコ

「適正に評価され  
ないたくさんの方  
が魚を発掘して売つ  
たい」と語る。

軌道は県内に入り、で間もなく目に訪れた。深浦町の会社大型定置漁業「ホリイ」社長・堀内精二を任せ

「何とかしたい」  
野呂さんは漁業者と  
の販売・普及を目指  
してNPO法人を10年に  
織。どんな魚が売れ  
るのかを探ろうと試験  
的に魚を売り、購入者  
の評価を漁業者に  
おもいかけた。

がいる」。野呂さんは「業が内さんは13年秋に付を聞きたい」と青年の居酒屋「野呂」

は後継者も減り漁駄目になる。一緒に加価値を付けて魚を販売する企力を込めていこう

飲食店チエーンとしている。展開するエー・ピー・カンパニー（東京）の画本部・深山佳嗣さん（37）は「（マグコ

「適正に評価され  
ないたくさんの方  
が魚を発掘して売つ  
たい」と語る。